

一期一会

終息の兆しを見せない新型コロナウイルス、コロナ禍での2学期でしたが、子ども達、また、先生方も皆元気に過ごすことができました。今学期の学校運営に対しまして保護者、地域の皆様には様々な面でご協力をいただきました。本当にありがとうございました。さて、学校ではこの状況下、行事の実施方法や授業の行い方などについて若干の不安を抱えながらもそれを払拭すべく努力してきました。運動会の実施方法を公民館を中心とした地域の方々と協議を重ね結果的に子ども達が満足できるものにすることができました。修学旅行、社会見学等の旅行的行事についても社会の実情を見極めつつ、行き先や日程の変更等検討、吟味し実行することができました。これらのことは今まで通りでよしとしたり、あきらめ中止したりというのではなく、「工夫して実施することの大切さ」を学ばせてくれ、今後における自信にもなりました。まだまだこうした状況が続くと思われまます。3学期も職員協力して頑張っていきますので、よろしくお願いします。

The 風景

令和2年2学期末

子ども達と先生がいる風景



お宝探し だって！



楽しいネジ先生の英語



上手に歯磨き
できてるかな？



5年生の理科は
教頭先生と



何やら楽しそう！



5.6年で連学年図工



そうそう！それぞれ！



全集中！

成長が見える校内展 作品が活気を与えてくれます



昼休みの風景…ほぼ全校児童が体育館に集結、バド、一輪車が人気！



実は、給食室前も子ども達の人気スポット

終業式での発表（1年生と3年生）

1年生と3年生が「2学期に学習したこと、2学期を振り返って」の発表をしてくれました。どちらも素晴らしい発表でした。

1年生は、国語で学習した「海のかくれんぼ」から、自分たちが描いた絵に隠れている生き物探しクイズをして楽しませてくれました。そして、その生き物について分かり易く説明してくれました。また、自然素材を活かしたリース作りについて、使った材料、作り方、工夫したことについてしっかり発表することができました。最後に声をそろえて言った、「3学期も、頑張るぞー！ オー！」のかけ声にやる気、意欲を感じました。

3年生は、クラスで取り組んだお茶作りについての発表でした。実際に挑戦した紅茶作りでとてもおいしくできあがったことから、お茶栽培について興味を持ち、中井侍に出かけ、お茶栽培をしている原田さんからお茶にまつわる様々なお話を聞き、知りたいと思う気持ちは天龍村の歴史、林業、水運にまで発展していきました。正に自分たちの願いを実現する学びができていることに素晴らしいさを感じました。発表の締めくくりに言った、「学ぶうることができたことに感謝」と言う言葉に成長を感じました。



校長講話（一部省略）

近頃みんなで使うものが大切にされなかったり、壊れたりすることが何回かありました。下平先生がそんな様子を見て心配されてお話をしてくださいましたね。そのことで、私はふと思い出した出来事がありましたので、今日はそのお話をしたいと思います。

「割れた花瓶」というお話です。登場する人は5年生のA君です。

A君と同じクラスの友達は放課後ドッジボールを楽しみました。そして、下校時刻になったので遊びをやめ、下校の音楽が鳴り終わる前に昇降口から出るために急ぎました。A君はボールを片付ける番で、教室まで慌ててボールを持って行きました。そして、教室に着くと、教室の隅に置いてある箱にポンとボールを投げ込みました。

ところが…

ボールはねらいとは外れて棚の角に当たってはね、こともあろうに大机に置いてあった花瓶に当たりました。花瓶は床に落ち、首のところがポッキリ割れて折れました。A君は慌てました。どうしようか迷ったあげく、ボールを箱にしまい、割れた花瓶は大机にのせました。先生はいません。下校時刻が迫ります。A君はそのまま黙って校舎を出ました。ドキドキして、いやな気持ちで一杯のまま帰りました。

翌日先生が、花瓶が割れたことをみんなに話し、「このことについて、知っている人は私に話して下さい。」とおっしゃいましたが、誰も何も言いません。知っているのはA君だけです。言わなくちゃと思いつつ結局その日A君は先生に話すことができず家に帰りました。その次の日も。

しかし、気持ちが晴れないまま3日ほど過ぎ、土曜日（昔は土曜日は3時間授業でした）、A君は家に帰る途中思い切って学校に戻り、教室に入っていました。先生は教室で仕事をしていて「どうした？ A君忘れ物か？」と聞かれました。

「はい、ちょっと…」といったあとA君は思いきって先生に「先生、あの花瓶、割ったのぼくです。」と言いました。叱られるかと思ったら、先生は、「そうか、A君、よく言ってくれたね。今までつらかっただろう。」と言ってA君の頭をぎゅっとなでました。A君は、ずっと心にあった石のように重たいものがすっと抜けてほっとしたのと、先生の優しさで目から涙がぼろぼろと出ました。